

2023/24年
シーズン

フルミストについて

(噴霧式経鼻インフルエンザ生ワクチン)

●フルミスト (FluMist Quadrivalent : AstraZeneca社) について

フルミストとは？

フルミストは、インフルエンザ予防のための経鼻弱毒生ワクチンで、A (H1N1) 型、A (H3N2) 型、B型 (山形系統)、B型 (ビクトリア系統) の計4種類の低温馴化されたワクチン株が含まれています。不活化インフルエンザHAワクチンと違い、痛みがほとんどありません。2003年に米国で承認され、欧米ではインフルエンザ予防の選択肢の一つとして使用されていますが、日本では未承認のワクチンです。

接種対象

2-49歳の健康な方が対象です。★当院では2~15歳 (中学生まで) の小児を対象とさせていただきます。

接種できない方

1. 2歳未満と50歳以上の方
2. 5歳未満で喘息と診断を受けている方、または繰り返す喘鳴 (風邪をひくとゼイゼイしやすい) の既往のある方
3. 1年以内に喘息発作や喘鳴の既往のある方
4. 重度の卵アレルギーのある方
5. ゲンタマイシン、ゼラチン、アルギニンに対して重度のアレルギーのある方
6. 免疫不全のある方
7. 日常生活や職務上、免疫不全のある人と接触される方
8. アスピリン服用中の方
9. 妊娠中の方

接種方法

専用の接種器具を用いて、左右の鼻の中に0.1mlずつ、計0.2ml噴霧します。フルミストに関しましては、他ワクチンとの同時接種は当院では行いません。

接種回数

毎年1回接種。

ただし 9歳未満の小児でこれまでに一度もインフルエンザワクチンを接種したことがない場合には4週間以上の間隔をあけて2回接種する必要があります。

フルミストの副反応

弱毒化され病気を起こす力 (病原性) はほとんどなく、さらには比較的高温の下気道 (気管支・肺) では増殖できないため、重篤な副作用はまず起こりません。鼻粘膜に感染させるため、約半数の方に鼻水、鼻詰まりなどの軽い鼻炎症状がみられます。小児では発熱がみられることもあります。もちろん、不活化インフルエンザワクチン同様、ごくまれにアナフィラキシーショックやギラン・バレー症候群などの重篤な副作用が起きる可能性もあります。

フルミストの利点

1) 鼻に噴霧するだけなので痛くありません。ただし、大泣きしている小児では、ワクチンが鼻から流れ出てしまい、効果が弱まってしまうことがあります。

2) 全身の免疫に加えて気道粘膜免疫を誘導できます。
インフルエンザウイルスは、気道の粘膜に感染を起こして増殖し、全身に広がります。不活化インフルエンザワクチンでは、血液中にインフルエンザウイルスに対するIgG抗体 (免疫物質) が作られることで、インフルエンザウイルスが全身に広がるのを抑えます。このIgG抗体は気道粘膜には存在しませんので、気道への感染そのものを抑えることはできません。つまり、感染そのものを防ぐというよりは、「重症化を防ぐ」作用が主になります。それに対し、経鼻インフルエンザ生ワクチンは、実際に気道 (鼻) の粘膜で弱毒化されたウイルスが増殖するため、気道粘膜でインフルエンザウイルスに対するIgA抗体が作られます。このIgA抗体は、インフルエンザウイルスが気道粘膜に感染を起こし増殖しようとするのを抑えますので、感染を阻止することができます。またインフルエンザウイルスの多少の変異に対しても対応することが可能です。

裏面もご確認ください >

フルミストの欠点

1) 接種できない人がいます。

低年齢児に投与した際、喘鳴が出現することがあるため、5歳未満で喘息と診断を受けている方、または風邪をひくとゼイゼイしやすい方、1年以内に喘息発作や喘鳴の既往のある方は接種できません。またワクチンに含まれる成分に対して重度のアレルギーのある方、免疫不全のある方、川崎病などに罹患しアスピリンを内服している方、妊娠中の方も接種できません。

2) 投与後数日間はワクチンウイルスが鼻咽頭分泌液中から検出されます。

日常生活や職務上、免疫不全のある人と接触される方は接種できません。

3) 2016-2017シーズンと2017-2018シーズンにおいて、フルミストのA (H1N1)に対する予防効果が乏しいと米国予防接種諮問委員会 (ACIP) から使用中止勧告が出されたことがありました。

英国においては効果があったとして小児の定期予防接種としてこの間も使われ続けていました。国によって効果に差が見られた理由はよくわかっていませんが、2018-2019シーズンからインフルエンザワクチンの選択肢の一つとして再び米国でも使用できるようになりました。

【国内未承認の輸入ワクチンです】

フルミストは国内未承認のワクチンのため公的な補償制度は適応されません。接種による健康被害が起こった場合、厚生労働省の「予防接種健康被害救済制度」による補償や、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構の「医薬品副作用被害救済制度」に基づく給付は受けられません。輸入会社による独自の補償制度の適応を検討いたします。

MONZEN 輸入ワクチン被害者救済制度について <https://www.monzen.co.jp/html/newpage.html?code=35>

【インフルエンザワクチン比較表】

	インフルエンザHAワクチン (不活化)	経鼻インフルエンザ生ワクチン (フルミスト)
	国産ワクチン	国内未承認の輸入ワクチン
成分	A(H1N1)型, A(H3N2)型, B型(山形系統), B型(ビクトリア系統)の4種のウイルスワクチン株のHA蛋白 (4価)	A(H1N1)型, A(H3N2)型, B型(山形系統), B型(ビクトリア系統)の4種の低温馴化ウイルスワクチン株 (4価)
投与方法	皮下注射	鼻腔内に噴霧 (鼻閉がある場合は延期)
誘導される免疫	液性免疫 (血中のIgG抗体) → 感染後の発症予防、重症化予防	気道粘膜免疫 (分泌型IgA抗体を誘導) → 感染阻止、交叉防御効果 液性免疫 (血中のIgG抗体) も誘導される
接種回数	6か月～13歳未満: 2～4週間隔で2回 13歳以上: 1回	9歳以上50歳未満: 1回 過去にインフルエンザワクチン (生ワクチン、不活化ワクチン) を受けたことがない場合は4週間隔をあけて2回接種
1回接種量	6か月～3歳未満: 1回 0.25ml 3歳以上: 1回 0.5ml	左右の鼻腔に0.1mlずつ噴霧
対象年齢	6か月以上	2歳以上50歳未満
接種できない方	卵などワクチン成分に対する重度のアレルギーのある方	2歳未満の小児や50歳以上の成人の方 5歳未満で喘鳴の既往がある方、1年以内に喘息発作を起こした方 18歳未満でアスピリンやサリチル酸製剤を内服している方 免疫不全のある方、免疫不全のある方と接触する方 (家族や介護者) 妊娠している方 卵などワクチン成分に対する重度のアレルギーのある方 など
副反応	接種部位の発赤、腫脹、疼痛、発熱、頭痛、だるさ	鼻汁、鼻づまり、頭痛、発熱